

一年を振り返って

リオデジャネイロオリンピック2016出場への最後の選考となる「アジア大陸予選」が、昨年11月に行われました。その結果、アジアの出場枠が一つしかなかったため、最高順位が3位だった私は、出場を果たすことができませんでした。既に出場を決めている選手もいなかったため、繰り上がりもなく、完全にリオへの道は断たれました。2012年8月のロンドンオリンピックで予選敗退し、リオで雪辱を果たすために頑張ってきましたが、出場することもできずに悔しい気持ちで一杯です。

自ら考え行動する選手に

私はカヌーを始めて18年になります。リオを目指して頑張ってきた4年間を振り返ると、つらい時期もありましたが、自分と見つめ合えた4年間であり、精神的にも成長できたと思っています。確かにタイムはそんなに変わっていないかもしれませんが、言われ

たことをただこなすのではなく、自分で考えてカヌーに取り組みる選手に成長したと思っています。今後は、選手として31歳を迎える「2020年の東京オリンピックでメダルを獲得」ことを目標に頑張ります。年齢的な不安もありますが、むしろカヌー界では円熟味を増す年代だと言われていますし、3大会オリンピック出場を目指して取り組んできた仕上げの大会と見据えています。

自身の弱さを乗り越えて

正直、昨年のアジア大陸予選前の9月から10月頃「もういいかなあ」とうまく言葉では表現できませんが、自分の限界を感じて心が折れる時期がありました。私はあまり相談しないタイプなので、誰にも相談はしませんでしたが、異変を感じ取ったコーチ陣が励ましてくれました。そんな心身ともに絶不調の中、和歌山国体を迎えました。結果はスプリント・カヤックシングル500mで8位、同200mで優勝を果たしました。本職の500mでは先行する後輩の背中を見て、波をかぶるといって、これまで

のカヌー人生で経験したことのない屈辱を味わいました。200mでは、リベンジを誓い、誰よりも速くゴールしたい一心で、優勝も目指りました。とにかくレース一本に集中し、勝つことができて、ほっとしました。200mは他の大会では優勝経験がありますが、国体では初の優勝となりました。

試練を力に変えて

これらの苦難を経験して得たものは、これからの自分にとってきつと役立つ、さらに成長させてくれるのだと信じています。リオへの出場はかないませんが、しかし、一日一日、カヌーをできる喜びと幸せを感じ、気持ち新たに、2020年の東京オリンピックを目指していきます。今年、選手として内面的にもっと強く、自分に厳しく、結果にこだわる一年にしていきたいと思っています。町民の皆さまをはじめ、会社や家族の支えが何よりの励みとなります。皆さまの期待に応えられるよう、頑張っていきますので、これからも温かいご声援をよろしくお願いたします。

夢の実現に向け
これからも
挑戦し続けていく

こんにちは
おかわねあずみ
大村朱澄
です!
vol.16

動画
de
広報
かわねフォンと
町ホームページ
でも配信中!

